

新規事業採択時評価結果(令和7年度新規事業化箇所)

担 当 課： 道路局 国道・技術課
担当課長名： 西川 昌宏

事業の概要

事業名	地域高規格道路 上信自動車道 一般国道144号 嬬恋バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	群馬県
起終点	自：群馬県吾妻郡嬬恋村鎌原 至：群馬県吾妻郡嬬恋村田代	延長	12.1km		
事業概要					
上信自動車道は、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジ付近から長野県側の上信越自動車道へ至る約83kmの地域高規格道路である。一般国道144号嬬恋バイパスは、上信自動車道の一部を形成し、長野原嬬恋バイパス終点部の吾妻郡嬬恋村鎌原から同村田代に至る延長約12.1kmのバイパス事業である。					
事業の目的、必要性					
・災害時の迂回機能を強化し、安定した代替ルート確保することで、孤立化リスクの解消が期待される。 ・高速ICへの移動時間短縮に寄与し、速達性向上による「嬬恋高原キャベツ」の即日販売圏域の拡大等、地域活力の向上に資する道路である。					
全体事業費	約433億円		計画交通量	約7,100台／日	
事業概要図					
位置図 【凡例】 ■■■■■ 当該箇所 ■■■■■ 事業中 ———— 開通済 ○○○○○ 調査中 上信自動車道 全体整備延長 約83km (うち群馬県 約68km 長野県 約15km)					

関係する地方公共団体等の意見

上信自動車道は吾妻地域の産業・経済の活性化のための動脈路としての役割とともに、災害時の緊急道路として重要な役割を果たすことが期待されており、嬬恋村をはじめとする関係3市4町2村の関係首長で構成される上信自動車道建設促進期成同盟会より早期整備の要望（令和6年11月13日）を受けている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

群馬県の公共事業事前評価において、総合的評価「優先度1（計画的に事業を実施する）」に決定。

対応方針(採択理由)

費用便益比が1.5であることに加え、災害時の大規模迂回の解消等リダンダンシーの確保が期待されるなど、便益が費用を上回っており、また、上信自動車道建設促進期成同盟会から早期整備の要望があるなど、事業採択時の前提条件が確認できる。上信自動車道の整備により、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築するとともに、物流の効率化や観光振興など地域の活性化支援に大きく寄与するなど、当該道路の整備の必要性・効果は高いものと判断される。

以上より、本事業は令和7年度新規事業箇所として妥当である。

事業評価結果(総合評価)

事業採択の前提条件
☒ 便益が費用を上回っている
☒ 事業実施環境が整っている

費用 便益 分析	B/C		(参考)	EIRR	総費用	約2,633億円	総便益	約3,922億円	感度分析		基準年
	(参考)	[4%]	1.5 (0.1)	6.1% (-3.3%)	〔 事業費：約2,446億円 維持管理費：約100億円 更新費：約87億円 〕	走行時間短縮便益：約3,217億円 走行経費減少便益：約546億円 交通事故減少便益：約159億円			交通量変動	B/C＝ 1.3 ～ 1.6 (変動ケース:±10%)	令和6年
		[2%]	2.1 (0.2)						事業費変動	B/C＝ 1.5 ～ 1.5 (変動ケース:±10%)	
		[1%]	2.5 (0.2)						事業期間変動	B/C＝ 1.4 ～ 1.5 (変動ケース:±20%)	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。
※B/Cは上信自動車道(渋川西バイパス～嬬恋バイパス)を対象とした場合の値、()書きの値は事業化区間を対象にした場合の費用便益分析結果。
※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。(()内は社会的割引率の値)

事業の影響	評価項目		評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・ 注目すべき影響はない
		事故対策	○	・ 本路線への交通転換により、並行する国道144号の事故減少が見込まれる。
		歩行空間	—	・ 注目すべき影響はない
	社会全体への影響	住民生活	○	・ 救急医療施設への安静早急な搬送が可能となる。 ・ バイパス整備により大型車や通過交通が転換し、走行時間の短縮や交通の安全性向上などが期待される。
		地域経済	◎	・ 出荷量が全国トップレベルの「嬬恋高原キャベツ」の輸送路の改善による輸送量及び商圈の拡大が期待される。 ・ 主要都市圏や高速道路網から主要観光地へのアクセス性、新たな周遊ルートが期待される。
		災害	◎	・ 現道が被災した場合の代替路線として嬬恋バイパスが機能することで、災害時の大規模迂回の解消等リダンダンシーの確保が期待される。 ・ 高規格道路のミッシングリンクの解消が図られ、上信越自動車道とのダブルネットワークが確立される。
		環境	—	・ 注目すべき影響はない
		地域社会	○	・ 主要都市間の移動時間が短縮し、定時性・速達性が向上する。

事業実施環境
嬬恋村等の沿線3市4町2村の関係首長、議会議長で組織する「上信自動車道建設促進期成同盟会」から、早期整備の要望を受けている。